

嬉 望

兵教大学学校経営コース大学院生編集部

●教職大学院の特徴① 取得単位の多さと充実した演習

私たち大学院生が現在学んでいる教職大学院とは、いったいどんなところでしょうか。実際にリアルタイムで学んでいる私たちの感じるところを記したいと思います

まず真っ先に思い浮かぶのは、修了に至るまでの演習の多さについてです。教職大学院は専門職大学院の1つで「高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培うことを目的」(学校教育法 99 条の2)とされており、理論だけでなく多くの実践的演習を取り入れているから当然と言えば当然なのですが、その多さには驚かされました。一方的に大学の先生の理論的な講義を受けるだけでなく、院生同士でディスカッションしたりフィールドに出て調査したり、発表したりと能動的な学びを非常に多く行っています。苦勞する部分も多いのですが、その分深い学びができます。



次に、終了に至るまでの必要な単位の多さです。兵庫教育大学教職大学院では修了に至るまでに 50 単位以上を取得することになっており、マスターコースの大学院の修了要件である 32 単位に比べて実に約 1.6 倍の多さです。その上に先述の演習、実習の多さが加味されますので、その学びの充実度合いはどのようなものか、想像していただけるのではないのでしょうか。

他にもまだまだ多くの特徴がありますが、紙面の都合でまたの機会に紹介をしたいと思います。

●兵庫教育大学教職大学院の特徴は① ～府県比較による多面的な分析・検討～

全国の教職大学院の中で、本学の特徴のひとつは、兵庫県からだけではなく、多くの府県から現職教員が派遣されていることだと感じます。現在、専門科目の授業で教職員評価制度を扱っていますが、そのテキスト(右表)には、学生の所属する7府県の比較がされており、講義やディスカッションにより特徴や課題が把握できます。授業で行う教職員評価の制度や運用の分析と改善案作成の際には、多面的な視点で考察・検討できるのは、本学ならではのところです。

1 制度概要(平成22年4月現在)

| | 兵庫県 | 鳥取県 | 山口県 | 京都府 | 秋田県 | 福岡県 | 鹿児島県 |
|-------------|-----|------|------|---------|-----|------|----------|
| 勤務評定としての実施 | ○ | ○ | ○ | 勤務評定とは別 | ○ | ○ | ○ |
| 絶対評価か相対評価か | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 能力評価相対併用 |
| 評価者研修は新任管理職 | ○ | 全管理職 | 全管理職 | ○ | ○ | 全管理職 | 全管理職 |
| 教職員面談 | 年1回 | 年2回 | 年2回 | 年2回 | 年3回 | 年3回 | 年3回 |
| 評価基準公表 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 評価結果開示 | 希望者 | ○ | ○ | ○ | ○ | 希望者 | ○ |
| すべてを開示 | ○ | 一部開示 | 一部開示 | ○ | ○ | 一部開示 | ○ |
| 苦情処理制度 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 以下略 | | | | | | |

(文部科学省「教育委員会月報」平成22年11月号を参考に作成)

【教職員の職能開発と研修プログラム開発
テキスト 3-1 56 頁】

●インターンシップの説明、打ち合わせを始めています

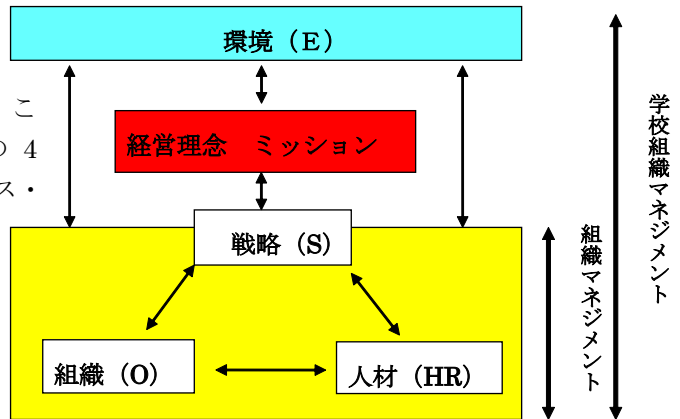
第1号でも紹介しました2年次で行うインターンシップについて、必要な書類のひな型等をもとに本学大学院学校経営コース2年次生がインターンシップ先にお邪魔して説明や打ち合わせを始めます。この通信が出るころにはすでにお話が済んだあとかもしれませんが、なにとぞ趣旨をご理解いただき、私たち院生にとって良い学びができるようによろしくご協力をお願いいたします。もちろん私たちは、府県市町村教育委員会から命を受け、将来において学校管理職・教育行政職として活躍することを旨として派遣されています。従ってインターンシップでの学びは私たち個人のためのものだけではありません。むしろ府県市町村、各学校の教育に還元するためのものです。その点についてもご理解いただきますよう、よろしくをお願いいたします。

●シリーズ 兵庫教育大学教職大学院の授業 ①

～教員のための組織マネジメント実践演習A～（必修共通基礎科目）

兵庫教育大学教職大学院で行われている授業について毎号1つずつ紹介をしていきます。第1回目は、「教員のための組織マネジメント実践演習A」です。この科目は必修共通基礎科目として、本学教職大学院の4つのコース（学校経営コース・授業実践リーダーコース・心の教育実践コース・小学校教員養成特別コース）の院生が必ず受講します。また、科目名の“A”は現職教員院生が受講する科目であることを意味し、“B”の科目はこれから教員を目指す院生（ストリートマスターなどといいます）が受講します。

この授業では組織マネジメントを基礎から学びます。そしてその理論を学校現場で実際にどのように活かすか、たくさんの演習を交えて、教員同士が互いの経験を踏まえながら実践的な議論を重ねます。右の図は学校組織マネジメントの全体像を示しています。『変化する「環境」に適応するために、「経営理念・ミッション」を設定し、「戦略・ビジョン」を策定し、「組織」や「人的資源」を活用しPDCAサイクルをまわす。』ということから、学び始めます。高度な実践力を持つ管理職、教育行政専門職を目指す私たちにとって頼もしい授業です。



（兵庫教育大学教職大学院テキストシリーズNo.1 より）

●全国の先進校・教育委員会をリアルタイムで研究

学校経営コースでは1年次の後期において、それぞれの院生の課題にそって、全国の学校や教育委員会の中から優れた実践事例をリサーチ・研究します。実際に現地に何度か足を運び、教育長や校長、教頭、教務主任の先生などにインタビューし、聞き取り調査や資料収集を行います。それらをもとに事例研究を行い、そして学校経営コースの課題研究の時間に互いに発表しあい、議論します。

また話が前後するようですが、1年次の前期（5月）には前年度の1年次生（つまり1年先輩）が研究した事例について、そのレポートなどから新たな視点で分析を行い発表します。その後の実践事例研究のウォーミングアップといったところでしょうか。しかし、ウォーミングアップと言っても実際には発表後の1年次、2年次、先生方を交えた議論の中で、鋭い指摘を受けるなどして、教職大学院、特に学校経営コースの学びの深さをあらためて思い知らされることになるのです。



平成22年度に研究対象とした教育委員会・学校

| | |
|--------------|-----------------|
| 伊丹市教育委員会 | 静岡県沼津市教育委員会 |
| 石川県立小松高等学校 | 愛知県高浜市教育委員会 |
| 東京都立八王子東高等学校 | 愛知県立安城高等学校 |
| 三重県立四日市高等学校 | 滋賀県立国際情報高等学校 |
| 大阪府立槻の木高等学校 | 京都府立福知山高等学校 |
| 鳥取県立倉吉東高等学校 | 大阪市立都島工業高等学校 |
| 岡山県立岡山操山高等学校 | 大阪府立堺東高等学校 |
| 広島県立広島皆実高等学校 | 岡山県立瀬戸高等学校 |
| 上富田町立上富田中学校 | 香川県立高松高等学校 |
| 岩美町立岩美中学校 | 広島県大竹市立大竹中学校 |
| 京都市立白河総合支援学校 | 福井県若狭町立三宅小学校 |
| 南木曾町立南木曾小学校 | 大阪府堺市立浜寺小学校 |
| 海士町立福井小学校 | 広島県安芸高田市立美土里小学校 |
| 菊池市立泗水小学校 | |

右に示したのは、課題研究において研究対象とさせていただいた教育委員会、学校です。課題研究以外にもそれぞれの授業の中でさらに多くの教育委員会、学校を扱って学んでいます。また、例えば高校に籍を置く大学院生が、小学校や中学校、教育委員会の事例について学ぶなど、校種、職種を超えた学びができることも、学校経営という広い枠組みの中で、教員としての引き出しが増え、とても役立つものとなっています。

今後の企画予定（次号とは限りません）学長インタビュー 教職大学院の特徴② 神戸サテライトの紹介 等々